

在宅療養推進事業に係るヒアリング定性調査について

練馬区地域医療課

令和4年3月10日

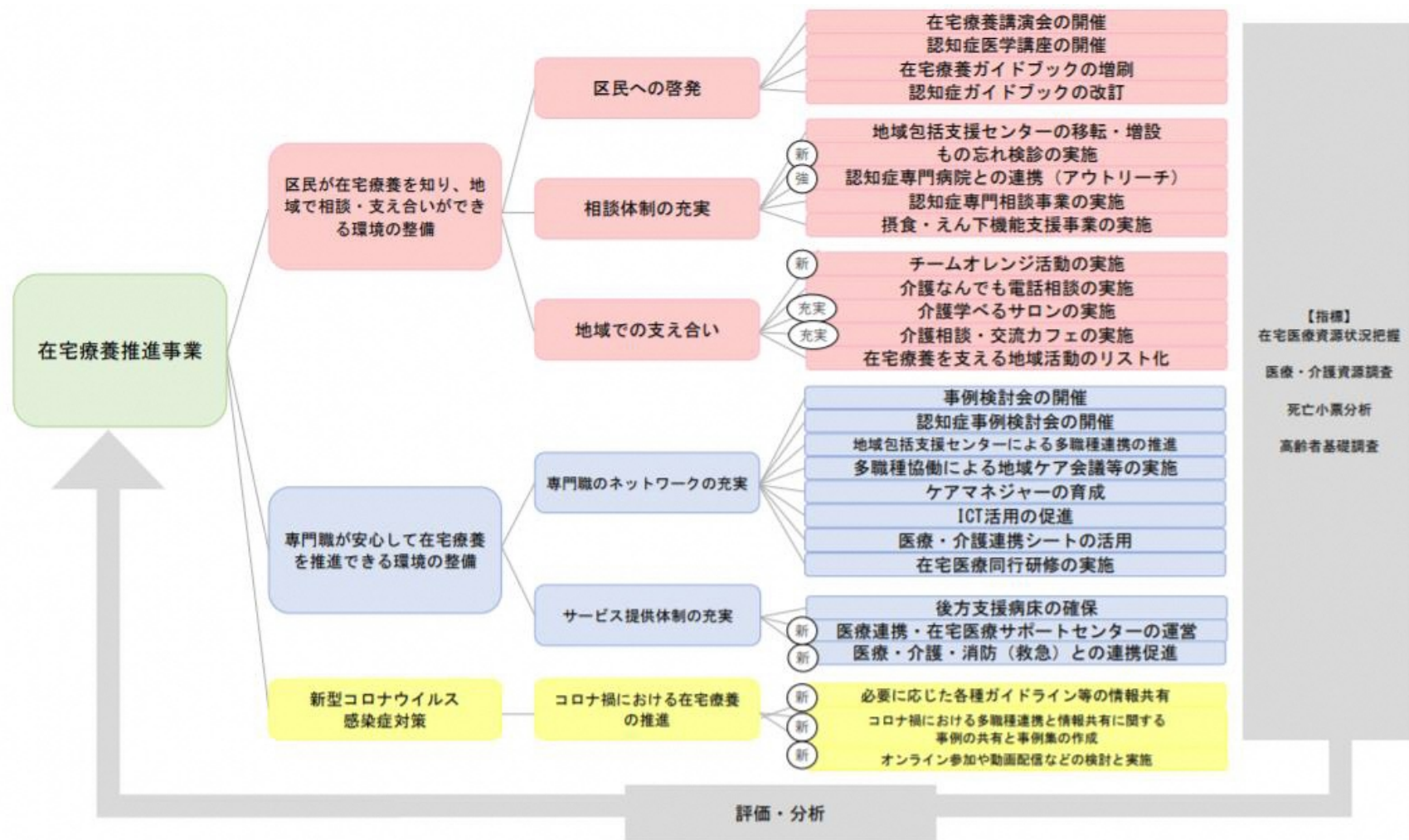
目次

1. ヒアリング定性調査の目的と位置づけ
2. ヒアリング定性調査におけるテーマ
3. ヒアリングのスケジュール（案）、対象と調査結果活用イメージ（案）

ヒアリング定性調査の目的と位置づけ

次期在宅療養携推進事業の策定に向けて（1）

令和6年度から新たに始まる在宅療養推進事業のより効果的な実施を目指し、既存の定量調査に加えて、在宅療養支援の現状について定性的に調査を行いたい。



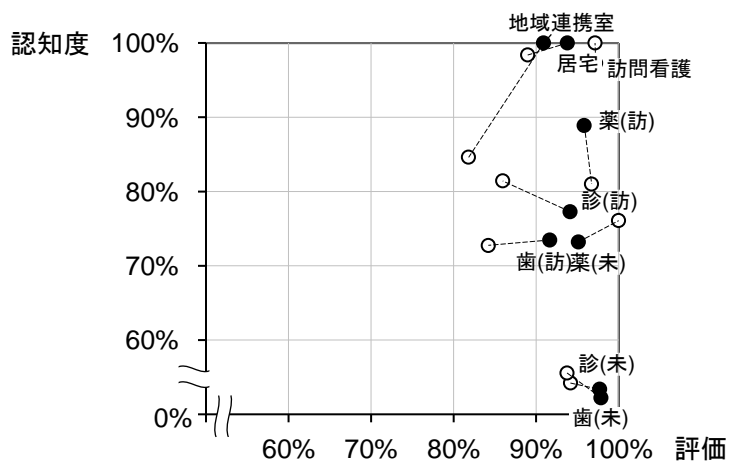
次期在宅療養携推進事業の策定に向けて（２）～事業の評価～

現状、実施している事業は、認知度および満足度ともに概ね向上している。

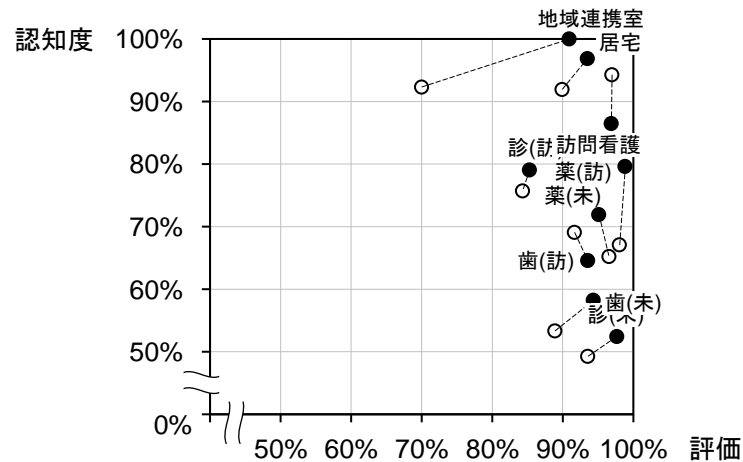
「区が在宅療養を推進するために行っている事業に対する評価（抜粋）」

○ 平成29年度 ● 令和元年度

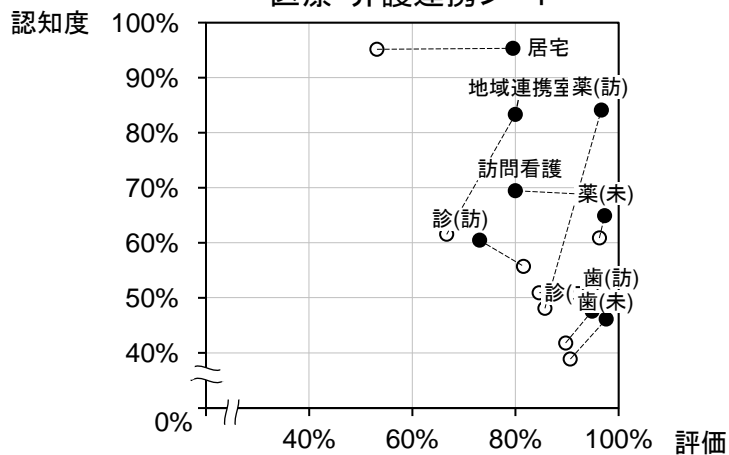
事例検討会・交流会



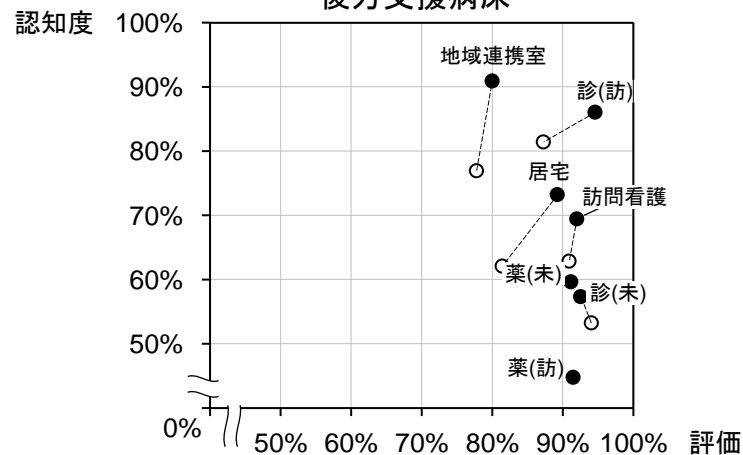
在宅療養ガイドブック「わが家で生きる」



医療・介護連携シート

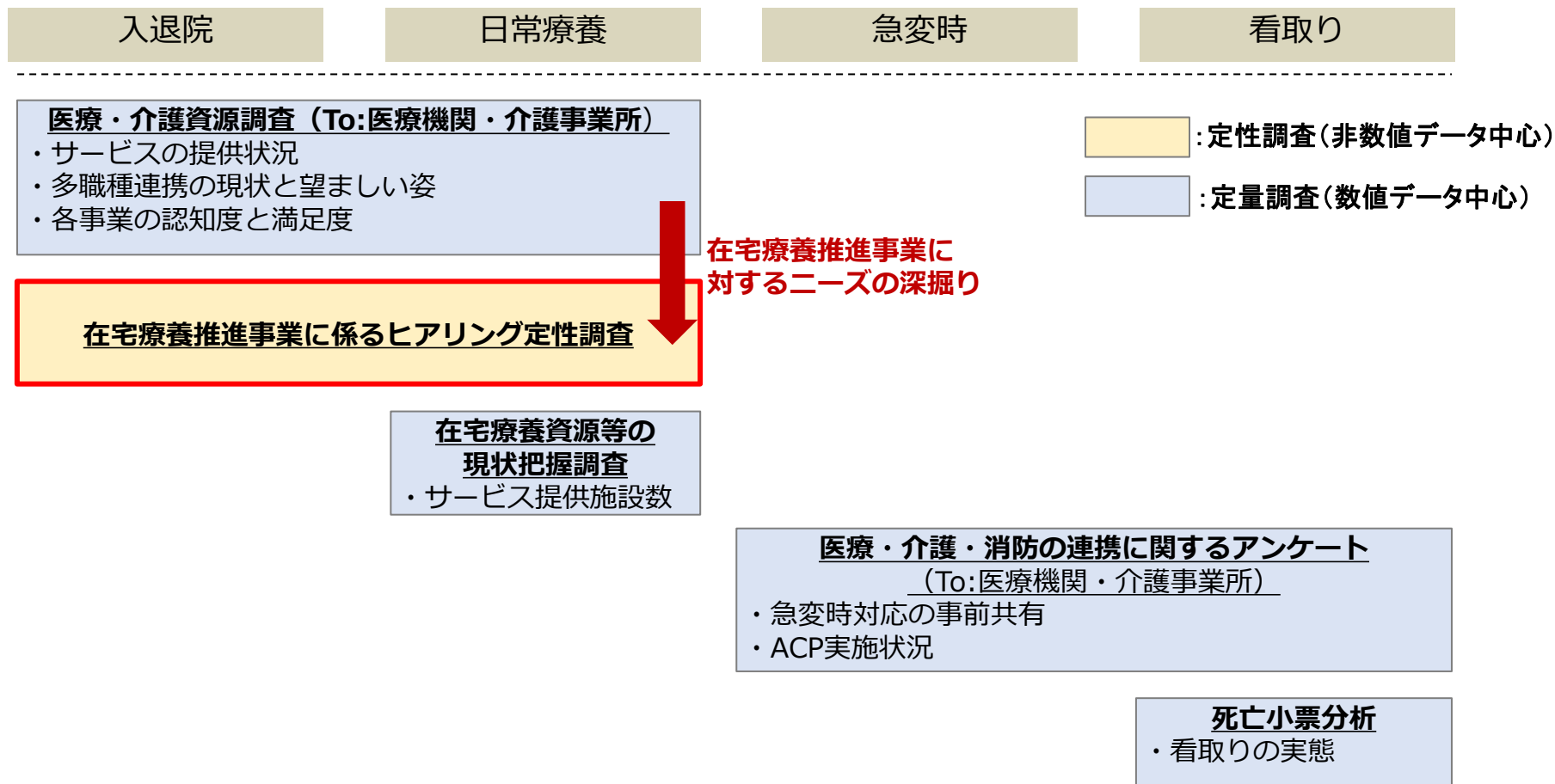


後方支援病床



ヒアリング調査の位置づけ

ヒアリング定性調査では、入退院および日常療養の場面を対象とした「医療・介護資源調査」から示唆される在宅療養推進事業に対するニーズを深掘りし、現状の課題と目指すべき姿についてヒアリングする。調査結果は在宅療養推進事業の効果的な実施について検討する際の参考とする。



ヒアリング定性調査におけるテーマ

「在宅療養を今後推進するにあたり必要と思われること」の具体化

在宅療養推進のために今後必要だと思われることとして、多職種連携や患者・家族の理解向上を求める声が多い。それらが求められる背景や、現状の課題等について具体的な意見を伺う。

「在宅療養を今後推進するにあたり必要と思われること」

	医療職と介護職の顔の見える関係性づくり	病院と地域の顔の見える関係性づくり	かかりつけ医の在宅医療への理解・協力	訪問診療を行う診療所の増加	24時間対応できる訪問看護の増加	患者や家族の在宅療養の理解の向上	ICTなどの情報共有ツールの導入	介護職の更なるスキルアップ	後方支援病床の利用拡大
地域連携室	41.7%	41.7%	41.7%	25.0%	58.3%	58.3%	25.0%	50.0%	33.3%
診療所	32.1%	29.6%	28.4%	21.0%	30.5%	31.7%	17.7%	27.6%	29.2%
歯科診療所	42.9%	39.5%	39.5%	28.6%	32.7%	36.7%	25.9%	33.3%	27.2%
薬局	46.2%	36.3%	47.4%	28.7%	19.9%	32.2%	17.5%	22.2%	15.2%
訪問看護	51.4%	56.8%	75.7%	43.2%	45.9%	67.6%	32.4%	56.8%	56.8%
居宅	60.3%	48.9%	72.5%	30.5%	48.1%	61.8%	21.4%	54.2%	54.2%
全体	43.6%	38.1%	45.3%	27.1%	32.8%	40.4%	20.8%	34.0%	31.4%

ヒアリング定性調査のテーマ

医療・介護資源調査から明らかになった「在宅療養推進のために今後必要と思われること」について、在宅療養支援の現状と望ましい姿に関して意見を伺う。以下2つのテーマを中心に調査を実施する。

重点テーマ①多職種連携の課題と背景要因

《目的》多職種の顔の見える関係性づくりに関する現状や連携上の課題となり得る背景因子を把握
望ましい多職種連携の姿についての意見収集

《ヒアリング内容（想定）》

- 在宅療養の4つの場面における多職種連携の現状と望ましい姿
- 多職種連携を促進する要因と妨げる要因（関係性・制度・慣習など）
- 支援がうまく行ったケースや更なる連携が必要だと感じた場面の具体例
- 在宅療養導入や日常療養期間の具体的な連携フローやコーディネートを担う職種

《対象》

- 各専門職団体の代表
- 地域包括支援センター

重点テーマ②患者・家族の在宅療養に対する理解

《目的》患者・家族の在宅療養に関する理解の現状の把握
在宅療養への理解を深めるためのよりよい支援者の関わりについての意見収集

《ヒアリング内容（想定）》

- （各職種）患者・家族の在宅療養の理解の現状
- （各職種）患者・家族への在宅療養に関する情報提供の状況、支援者の関り
- （各職種）患者・家族が在宅療養に関してどのようなことを理解することでより良い在宅療養が可能になるか
- （患者・家族）在宅療養移行の検討時および在宅療養中に感じた不安や、してもらって助かったと感じた支援の内容

《対象》

- 各専門職団体の代表
- 地域包括支援センター
- 患者家族の会

(参考) 多職種連携の促進に関するニーズ

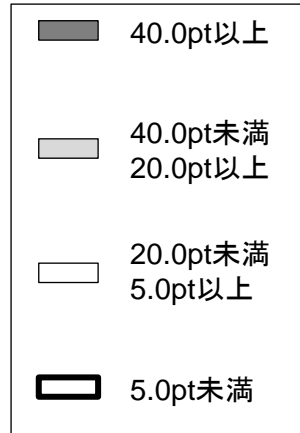
多職種連携の更なる促進を望む声は多いが、そのニーズの高さは特定の職種間やその属性ごとに差がある。

「多職種連携の現状と望ましい連携関係の比較」

※図表内の数値は、「理想とする状態 (%)」－「現状 (%)」のPt数を表しており、Pt数がマイナスの場合、現状が理想に達していないことを意味する。また、数値の絶対値が大きいほど、理想と現状の差が大きいことを示す。

連携先

単位 pt	病院の 棟棟看護師	地域連携室 担当者	診療所医師	歯科医	薬剤師	訪問看護師	リハ専門職	訪問看護、訪問 リハ等の 言語聴覚士	ケアマネジャー	介護士	通所介護の 相談員	老健の相談員	地域包括支援 センターの 担当者	保健所・保健相 談所の担当者	患者・家族の会
地域 連携室			8.2	-16.7	-8.3	0.0	-25.0		8.4	-41.7	-33.4	25.0	0.0		-41.6
診療所	訪問				-8.9	-15.6			-17.8					-42.2	-40.0
	未実施				-8.8	-36.2			-32.2					-38.0	-36.9
歯科	訪問		-13.7			-60.8		-66.6	-49.0						-70.6
	未実施		-28.4			-61.0		-49.5	-55.8						-49.4
薬局	訪問		-4.6			-31.8			-12.8						-40.9
	未実施		-8.5			-47.5			-47.5						-52.5
訪問 看護	-35.1	-8.1	-2.7	-67.6	-13.5		-13.5		-2.7	-10.8			-8.1		-59.5
居宅	-21.4	-10.0	-15.3	-18.3	-7.6	-1.5	-0.7			0.0	-0.7	-12.2	-2.3		-45.8



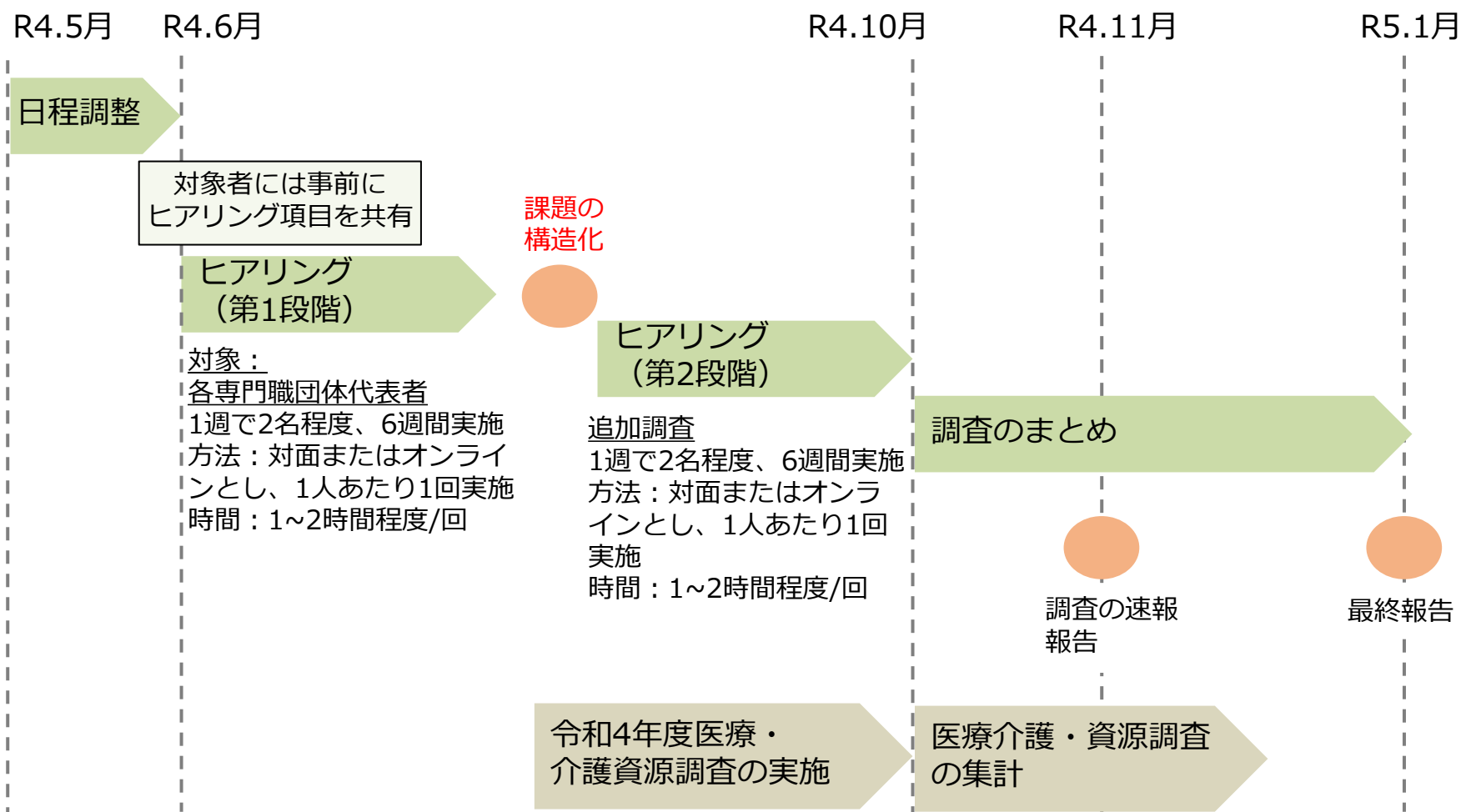
回答事業所

ヒアリングのスケジュール（案）、対象と調査結果活用イメージ（案）

スケジュール

第1段階のヒアリング調査内容をもとに課題の構造化を図った後、ヒアリングの第2段階では課題要因の深掘りのための追加調査を実施する。

令和4年6~9月の3カ月間をヒアリング実施期間とし、令和5年の1月の専門部会での最終報告を目指す。



ヒアリングの対象と調査結果活用イメージ

ヒアリング対象は、協議会および専門部会の委員を中心に、各専門職団体1～2名に依頼する。調査結果は、今後の事業の方向性や実施内容を検討する際の参考とする。

対象	ヒアリングテーマ	事業への活用案
<p>以下の団体代表者</p> <ul style="list-style-type: none">医師会歯科医師会薬剤師会病院（看護師・連携室）介護サービス事業者連絡協議会リハビリテーション従事者連絡会地域包括支援センター患者家族会	<p><u>在宅療養推進のために今後必要なこと</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 多職種連携の課題と背景要因2. 患者・家族の在宅療養に対する理解	<ul style="list-style-type: none">• 事例検討会のテーマ、登壇職種、PR方法の検討• 在宅療養講演会のテーマ設定• 「わが家で生きる」冊子・PR動画の活用• 医療連携・在宅療養サポートセンターの周知啓発• ICTの活用の促進• 在宅療養推進協議会、在宅療養専門部会での検討

《第2段階のヒアリング候補について》
第1段階のヒアリング終了後に決定する。追加ヒアリングの必要があると判断した職種の各団体代表者に推薦をお願いします。